

コラム 恐竜の体温調節に関する新説

恐竜は変温動物か恒温動物か、という議論は長らく続いているが、これに関しての新説が述べられた論文が米ニューメキシコ大学などの研究チームにより発表された。論文によると、研究チームは数種の恐竜化石に見られる成長輪を測定し、成体に至るまでの成長パターンを推定、それを様々な絶滅種・現生種と比較した。その結果、恐竜の代謝速度は変温動物と恒温動物の間であるとの結論に達し、恐竜をマグロやオサガメなどに最も近い代謝速度を持つ中温動物というカテゴリに分類した。中温動物とは、体温を維持するために体内で生成された代謝熱に依存する場合がある一方、体温が外環境の温度に左右されることもある動物である、としている。

現在、恐竜は恒温動物であるとする説が支持される傾向があるが、この恐竜恒温説に関しては今回の論文も含め反論も少なからずあり、議論はこの先も続いていきそうだ。

参考記事: AFP BB News 恐竜は「中温動物」、米チームが新説発表

恐竜教室IN岸和田

5月17日に、きしわだ自然資料館で恐竜教室が開かれました。講師はお馴染み徳川広和さん。JPKからは大野会長と、雑用兼見学で私こと間野がお邪魔してきました。

サークルでは何度もお世話になっている場所なのですが、私が訪れるのは初めて。到着後、開始までに間があったので展示を見させていただきました。詳細は割愛しますが、モササウルスの美しい全身骨格標本は必見です！

午後、恐竜教室が始まりました。前編は大野会長による講義。昔の復元図や人形によるクイズを交えながら、古生物学を楽しく簡単に解説されました。ちゃんと付いてくる子どもたちに感心しつつ、楽しく見学させていただきました。後編は徳川さんによるワークショップ。今回は「ディノケシ」という消しゴムでできた精巧な骨格標本に、色つき紙粘土で肉付けする、という内容でした。お題はティラノサウルス。鱗を彫ったものや羽毛を表現したもの、某モン○ンのティ○レックスを彷彿とさせるようなカラーリングのもの、全力で保護色なものなどなど、それぞれの個性が光る作品がたくさん出来ました。(なぜ写真に残さなかったんだ私.....っ)



ワークショップ終了後は恐竜教室大人の部の時間です。徳川さんがアメリカで有名な博物館や発掘現場を見て回ったときのお土産話を中心に、勉強させていただきました。すごく楽しかったです。

古生物紹介

アラモサウルス
(*Alamosaurus sanjuanensis*)

恐竜・竜盤目・竜脚下目・
ティタノサウルス上科・
サルタサウルス科
中生代白亜紀後期 北米大陸
全長21m



白亜紀大絶滅を 生き延びた??

発掘されたアラモサウルスの大腿骨の化石を「ウラン・鉛法(放射性炭素年代測定)」で年代測定したところ、白亜紀大絶滅を示すK-Pg(K-T)境界から約70万年後の化石であることが判明した。これが事実だとすれば、今までの定説を覆す非常にセンセーショナルな化石であるからか、複数の研究者から測定の誤差であろうと否定されている。確かに年代測定に1%程度の誤差は付き物かも知れない。しかし実際にそのようなデータがある以上、可能性は0ではなく、そのロマンを追い求める価値はあると私は考えている。

メンバー紹介

岩岸広大 大阪市立大学 理学部地球学科 1年生
古生物学を学ぶために市大地球科を志望。
ワンダーフォーゲル部と兼部。J-POPが好きでよく聴きます。
最近は鉱物にも少し興味アリ。

好きな古生物 セントロサウルス類
好きな現生の生物 ガラパゴスウミイグアナ

入部動機
古生物、特に恐竜に触れる機会があるサークルがあるなら入るしかないと思った。



編集後記

今年度も無事に新入生を迎えることができ、ほっとしている今日この頃。今年2号目のJPK通信となりました。夏には、博物館を巡る旅行や化石掘りなどのイベントを企画中です!! また、秋にはワークショップがたくさんあるので、JPK通信もたくさん発行できるかな!? 今後の活動もどうぞ期待です!

